

「感謝を忘れてはいけません！！！」

～感謝はあなたを救う～

詩編103：1-6

はじめに神様に出会って主がよくしてくださったことを思い返してみてください。私たちの目線がどこに向かかということはとても大切なことです。片頭痛を1か月もの間患っている女性がいました。へそくりでも何でも差し出すからどうにか治してほしいと牧師先生に相談をしました。礼拝前だったこともあり、牧師先生は礼拝が終わってから祈りましょう。と伝え、礼拝が終わってからその女性のところに行くとき清々しい顔をして、礼拝中に癒されました！と、帰っていききました。神様を信じて、その信仰に応じて神様の一番最善な時に願いをかなえられました。神様は彼女に人ではなくて、神様自身がなされることを教えられるのです。神様が生きておられる共におられることを知っているということがどれだけ大切かということがわかります。目の前の問題解決はとても大切なことですが、神様の目線はいつもその人を究極的に造り替えようとしておられるのです。聖書の中を見るとき全ての出来事において結果を大事にしている記事は一つも無く、いつもプロセスが重んじられています。神様は私たちの人生のプロセスに関わってこられるのです。

「感謝」と「ごめんください」この二つは近い関係であればあるほど、大切であればあるほど、とても難しく、なかなかできません。神様は、ありがたうとごめんくださいとをさせるために、また私たちの人生が真実で生かされるように十字架で痛みを通っていかれました。根底には罪の許しと救いがあります。罪の赦しと救いというのは、神様と出会って、ありがたうと感謝の恵みを理解した時に救いが完成されていきます。それからその人に言われた。「あなたの信仰があなたをなおしたのだ。(ルカ17:19) “なおした”とは病気のことでありません。神様は他でもないあなた自身を治したいのです。だからといってあなたは壊れるわけでも、ボンコツな訳でもありません。あなたは素晴らしい神様の作品として造られたのですが、心の、“何か”がずれてしまっているのです。それは人間関係の中でずれてしまい、家族や職場、また周りの多くの人達とかかわる中で私達は裏切ったり、裏切られたり…。裏切られて傷ついた思いは近ければ近いほど、その問題に目を向けたと痛みがあるので相手には向けられません。ですから、私達は大きな問題では無い問題を、問題にしてしまいます。心の病は恐ろしいもので、人生をむしばんで変えてしまいます。では神様は元々人間に病を与えたのでしょうか。創世記をみてみると人々は病の中に陥るようになってはいたなかったのです。原因は何でしょうか。原因がわからず病院にいくと“ストレス”と診断されることがあります。しかしそれは心の中にある本当の問題が解決されていないのです。名水100所に選ばれた井戸があり、ある日その水が臭くなり、水を全部出し捨ててみましたが、その対処療法では変わりませんでした。次に井戸の奥の底の泥を掘り返してみるとヘドロがあり、それは猫の死骸であることがわかりました。それを取り除くことで泉は元通りに戻りました。私たちの心の中でも同じことが言えます。私たちの人生の中には、“害”であった出来事があるのです。その過去がある限り、私たちがリフレッシュされ一時良くなったとしても、またそれが出てくるのです。私たちの長い人生の中で腐敗していった部分に、神様は長い期間をかけて関わろうとします。それは対処療法ではなく、根本の治療なのです。ヨセフ・アブラハム・ダビデに関わられたように関わってこられます。その心の備えが有るか無いかはとても大切です。私達は病院で出された薬を勝手にコントロールしてしまう事があります。症状が良くなる止めてみたり、次の診察日があるのに良くなったかといっただけでなくなったりします。やがて再発してしまいます。病院で出される薬は量、期間共にお医者さんがあなたの症状に合わせて一番良いものを選んで出しているのです。私たちの中の何かかがずれてきていると、本来あるべき姿を自分で保てなくなってしまう、自分で変えてコントロールしてまた悪くなることを繰り返してしまいます。これが人生の悪循環で、これを繰り返していたら信仰生活の意味がありません。私たちの信仰は少しずつ神様の身丈にまで成長していかねばなりません。これまでの人生をもう一度振り返り考えてみましょう！神さまは全てのマイナスをプラスにするとされているのですから、すべての出来事はプラスになるはずなのに、マイナスに出くわすと怒ってしまいます。なぜでしょうか？それは神様があなたの目の前におらず、イエスキリストの十字架があなたの前に無く、あなたの心の問題が解決されていないからなのです。「苦しみにあつたことはわたしにとって幸いでした。」とダビデは言っています。なぜ言えたのでしょうか。それは苦しみが必要不可欠なことを30年かけて体験したからです。あなたは死海ですか？ガリラヤ湖ですか？死海は見た目、奥底まで見えるようなとても綺麗な湖です。しかしその中には生き物は一匹もないほど塩分濃度がすごく、そこには命がありません。ヨルダン川から恵みを受けるが、流すことは生涯ありません。ガリラヤ湖はカモメとまたカモメの糞でいっぱいです。なぜなら餌がたくさんいるのです。そこには命が多く生息しています。感謝の恵みは流さなければなりません。神様の恵みです。すべての出来事が恵みなのです。マイナスに見る恵み。プラスの恵み。すべての終着点は祝福なのです。パウロは言っています。「どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。(ピリピ4:11) 全てが神の恵みになることを知るために聖書があります。聖書は人の生き様が書かれています。大まかに分けると4通りの生きざまが出てきます。【神様はいらないと言って出て行ってしまった人】、【苦難の中で神様に近づいていった人】、【神様と一緒にいた皆さんの試練があったけれどそれでも一緒にいてくれていた人】、【やっばりやめたと行かなくなった人】聖書を通して全て私に從うものは祝福されること、それを神様はあなたに伝えたかったのです。

サマリを經由すれば近いのですが、サマリヤに入ることで自分が汚れる事だったのでわざわざ遠回りをしました。その時代ツアラトに冒された人々は一緒にその街で住むことができませんでした。自分はツアラトだ！近づくな！と言って誰とも接触することか許されず、街の外で過ごし、孤独に生きなければならませんでした。ユダヤ人とサマリヤ人は差別をしながら生きていましたが、ツアラトに冒されているサマリヤ人とユダヤ人は一緒にいました。ツアラトという共通点で一緒にいたのです。聖書の中ではツアラトは罪人の象徴とされていました。その頃、ユダヤ人は自分は正しいとしていました。対照的にツアラトの人は自分は罪人だと言って生きなければならませんでした。ここからみせられるのは、今のクリスチャンと神様を求めようとしている人の姿に似ています。聖書の中でサマリヤ人はひきまわす自分が多く愛されたことを知ろうとします。聖書の中で自分が罪人だとわかっている人は“こんな私でさえ愛された。”と神様の前に戻ろうとしています。長血の女はイエス様の衣の裾にでも触れることが出来れば！と信じた。しかし、ユダヤ人はイエス様を呼び出して、話をさせました。長血の女とユダヤ人とは神様の求め方がずいぶん違います。みなさんには神様を求めるときにどんな風に近づこうとしていきますか？問題の中にある人は長血の女のように求めることができるかも知れません。しかし今置かれている現状が過去に神様があなたの人生をどれだけ祝福し憐みの中で今を与えてくれたのかを忘れていませんか？呼び出し話をさせたユダヤ人のようになってしまったのです。イエス様はそうではありませんでした。自ら出向いて境に行かれたのです。10人のツアラトの人がいきました。「先生、どうぞ憐れんでください！」と求め、イエス様が「行きなさい。そして自分を祭司のところに見せなさい」といきました。イエス様は彼たちの心の一番の問題を治そうとしたのです。彼たちの多くが求めたのは病の癒しではなく、自分がユダヤ人であるというこの誇りの回復だったのかも知れません。10人はすぐには治れず祭司のところに行く途中に癒されたことがわかりました。そのうちのサマリヤ人が、イエス様の元へ大声で感謝し帰って来ました。たった一人だけでした。他の9人はどうしたのでしょうか。神様を求め、触れられ、振り返ってみれば180度変わったのにも関わらず、すっかり忘れて、感謝も忘れて生きるのです。イエス様は帰ってきた1人に、「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたをなおした。」と言われました。10人病が治ったけれども本当に治ったのは1人だけでした。その人は人間になりました。神様がクリスチャンとして私達に与えてくださった最大の恵みは、「ありがたう。」また感謝する事、「ごめんください。」です。いつも感謝して生きる事であり、自分が間違えればちゃんとごめんくださいと言えることです。9人の彼らは、感謝することが出来なかったのです。癒されること、恵まれていることは当たり前だったからです。

① どのように受けたか？

神様はあなたの人生を通してその場所に栄光を現わそうとしておられます。咲くのを自らやめないで下さい。「信仰が無くならないように祈った。」と書いてあります。聖霊さまはあなたのことを深いうめきをもって祈っておられます。命がけの愛です。心配しないでください。命をかけてあなたの為にしたことで、悪くなることなく無いです。聖書の約束です。従ったものは必ず祝福されます。後はその道をイエス様と一緒に戻れるかどうかなのです。感謝ができるとそれができず、それができないと文句になってしまいます。

② 数えよ

しっかり神様から受けた恵みをもう一度数えてください。

③ 恵みを証し、流す

数えて、どのように受けたかを思い起こしたら証してください。ある大学で200人の生徒を100人ずつ2班に分け、毎日の嫌だったこと、毎日の良かったことを3週間書き出させました。3週間嫌だったことのみ書き続けた生徒は、7割が病気になるました。人間関係が悪くなり、多くのカップルは別れました。一方良かったことのみ書き続けた生徒は、人間関係が良好になり、出世をした人までいました。健康面も腎臓、肝臓の数値が良くなりました。このように感謝に目が向くと変わっていきます。賛美は“強制”感謝です。感謝できないときに賛美し感謝するのです。感謝の種でいいので感謝の初成りをどうか実らせてください。そして既に私達が受けている感謝の恵みを流していかなければなりません。クリスチャンは受けることと流すようになっていくのです。是非感謝の日記を書いて日々感謝に目をとめてください。

感謝の力 ストレスを取り去り 人間関係を祝福し健康にする

「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」ヨハネ第3章2節 一日は感謝の賛美から始めましょう。感謝しつつ主の門に！感謝を選んで進んでいきましょう。そうすると変わっていきます。感謝の中に神の栄光が現れていくからです。

10人のツアラトの癒し (ルカ17：11-19)

イエス様はなぜカペナウムとガリラヤの境に行ったのでしょうか？ 当時ユダヤ人はヨルダン川をわざわざ渡ってガリラヤへいきました。

(要約者：富岡 牧)

(2018年9月23日)